

# [振り返り] 第 1 回検討委員会(8 月 4 日) 議事概要版

## 1 基本計画策定の背景と目的

(背景) ・令和 3 年 6 月「芦屋市ゼロカーボンシティ」表明  
 ・令和 4 年 3 月「芦屋市環境処理センター施設整備基本構想」(以下「基本構想」という。)策定  
 「芦屋市一般廃棄物処理基本計画」見直し  
 ・令和 4 年 4 月「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」施行  
 (目的) 「基本構想」に基づき、本市の取組みや国の方針を踏まえ、施設整備に関する具体的な詳細検討を行う。

## 2 基本計画策定スケジュール

令和 4 年度から令和 6 年度までの 3 ヶ年で策定する。  
 各年度での主要検討項目  
 令和 4 年度：「プラスチック資源への対応」「処理方式」「別棟・合棟」  
 令和 5 年度：「施設の設備仕様概要」「公害防止基準」「施設機能(環境、災害対策)」  
 令和 6 年度：「実施方針」「PFI 導入可能性調査による事業方針」

## 3 基本方針

基本構想において設定した目標及び方向性を踏襲する。

- 目標 1 地球温暖化対策**  
 方向性：焼却エネルギー等の利活用や省エネルギー化により、脱炭素に貢献する施設
- 目標 2 循環型社会の形成**  
 方向性：持続可能な社会の実現に寄与し、社会情勢の変化にも対応可能な施設
- 目標 3 環境保全**  
 方向性：環境に接し、環境を学び、環境を考える、市民に親しまれ環境の保全に配慮した施設

※多目的価値の創出についても、検討を進めていく。

## 4 計画目標年次(別棟の場合)

- 資源化施設：令和 9 年度(2027 年度)
- ごみ焼却施設：令和 15 年度(2033 年度)

※今後予定しているメーカーアンケート結果も踏まえ、検討・決定していく。

## 5 計画処理量(別棟の場合)

プラスチック使用製品廃棄物(以下「プラ」という。)の分別収集の有無により、2つのケースで検討し、算出する。以下、「6 施設規模」「7 計画ごみ質」も同様とする。

ケース		ケース 1 (プラ分別収集無し)	ケース 2 (プラ分別収集有り)
資源化施設	資源系	1,137 t/年	2,269 t/年
	粗大ごみ	1,812 t/年	1,812 t/年
ごみ焼却施設	燃やすごみ	20,613 t/年	19,481 t/年
	選別残渣等	1,862 t/年	2,088 t/年

【参考】○プラ分別収集実施による環境面の検討  
 温室効果ガス排出量は、年間約 1,300 t-CO<sub>2</sub> の削減となる。  
 ○プラ分別収集実施による費用面の検討  
 施設建設費・運営費・収集運搬費として、年間 1.5 億円の費用が必要となる。  
 (20 年間での算定)

## 6 施設規模(別棟の場合)

「ごみ処理施設構造指針解説」(社団法人全国都市清掃会議)に基づいて算出する。  
 なお、社会情勢等の変化や最新の処理実績を踏まえ、適宜、見直しを図っていく。

ケース		ケース 1 (プラ分別収集無し)	ケース 2 (プラ分別収集有り)
資源化施設	施設規模	15.4 t/日	20.7 t/日
	ストックヤード必要面積	約 330 m <sup>2</sup>	約 710 m <sup>2</sup>
ごみ焼却施設	施設規模	91.8 t/日	88.1 t/日

## 7 計画ごみ質(別棟の場合)

過去 6 年間(平成 28 年度～令和 3 年度)のごみ質実績を踏まえ、算出・設定する。

項目	単位	ケース 1 (プラ分別収集無し)			ケース 2 (プラ分別収集有り)			
		低質ごみ	基準ごみ	高質ごみ	低質ごみ	基準ごみ	高質ごみ	
三成分	水分	%	46.0	38.3	31.2	47.3	39.3	31.8
	可燃分	%	46.6	54.4	62.2	45.1	53.2	61.4
	灰分	%	7.4	7.3	6.6	7.6	7.5	6.8
低位発熱量	kJ/kg	7,700	11,400	15,100	6,800	10,600	14,500	
単位容積重量	kg/m <sup>3</sup>	123	114	105	124	115	106	